

町民と議員のタウンミーティング in 新町区 開催概要

令和 7 年 11 月 27 日

報告者 小林テル子

開催日時:令和7年11月20日 PM6:30

開催場所:新町コミュニティーセンター

参加人数:新町区民22 名

(男性 20 名・女性2名)

議員7名



【概略】

新町区長から地区の概要説明があり、人口1052人（町全体の5.9%）、世帯数340件、75歳以上高齢化率22%（町平均27%）より低いと報告がされました。主な質問意見は防災無線の聞こえにくさ、国道153号の交通問題とバイパス整備、町長の公約（スマートインターチェンジ、道の駅、温泉施設）の実現性、少子化に伴う学校統廃合問題、議員の定数と選挙問題、女性の会議参加の促進、熊対策と松枯れ対策でした。特に国道153号の渋滞や危険性については多くの住民からの意見が出され、バイパス整備の必要性が強調されました。舟橋議長からはバイパス整備の進捗状況や、スマートインターチェンジと道の駅構想について説明がありました。また、住民からは議会での町の回答が「検討します」で終わることへの不満も表明され、議員側は具体的な期限を求めていく必要性を確認しました。女性参加者からは、このような会議に参加する機会の重要性も指摘されました。最後に熊対策吉沢議員、松枯れ対策について小林議員から現状と今後の取り組みについて説明がありました。

【詳細】

・新町小林区長による地区概要説明

区長が地区の概要説明を致しました。人口は1052名（2025年11月現在）で町全体の約5.9%、世帯数は340世帯町の4.5%を占めています。年齢構成は0-6歳が25人（3%）、7-17歳が83人（9%）、18-74歳が744人（66%）、75歳以上197人（22%）となっており、町全体の75歳以上高齢化率27%より5%より低いことが報告されました。財政は約1500万円で、組織は総務、土木、防災、環境衛生の4委員会で構成されています。また、新町の起源は江戸時代中期に遡り、宮所村の出張所として新町宿が作られたことが始まりと説明されました。現在も南北に縦断する国道153号の周辺が主な居住地域となっており、国道153号の渋滞や振動、横断の難しさなどが生活環境上の課題となっていることが指摘されました。

・防災無線の問題についての意見質問について

松田氏から、防災無線が聞こえないという問題提起がされました、町役場から離れた地域では何を言っているか分からず、いざという時に役に立つのか疑問だと指摘されました。古村議員より、防災無線による伝達には限界があり、大雨の際には家の中にいると聞こえないことなどを説明しました。町としては来年春から高齢者などの情報入手の手段が限ら出ている世帯向けに、戸別受信機を導入する方針で検討していること、また17区の公民館にも設置する予定があることを説明しました。区民からはLINEなどのデジタル手段の方が効果的ではないかとの提案がされました。

・道路整備と国道153号の渋滞の状況について

野澤氏から人口減少の中で安心して住める環境づくりのために道路網の整備が重要だという意見が出されました。特に国道153号が新町を東西に分断し、朝晩のラッシュ時には通過車輛が多く危険な状態で小学生児童はほとんど国道の歩道を通学路としていないことの指摘がありました。バイパス化によって通過車両や大型車両を分散させる必要性が強調され、関係議員の協力に感謝の意が表されました。議長からは11月17日のバイパス期成同盟会の活動報告として、来週に県政事務所へバイパス北側延伸の早期実現に向けた要望を提出する予定であることが説明されました。また、松田氏からは新町の交差点の右折表示について、以前は右折禁止だったものが数年前から時間で許可されたことで渋滞が悪化しているとの指摘があり、再び右折禁止にすることを検討すべきとの意見が出されました。小林議員より、右折禁止について、調査をした経過がありますが、警察署の管轄で、変更が難しいことがわかりました。ともに多くの皆さんで要望していきましようとの説明がされました。

・スマートインターチェンジと道の駅構想について

根津氏から町長選挙の公約に挙げたスマートインターチェンジや道の駅構想について質問がありました。特にバイパス計画との関係性や優先順位について懸念が示されました。議長は現時点では町長の具体的計画は把握はしていないと前置きした上で、スマートインターチェンジはETCゲートから道路までの整備に町の負担が生じること、バイパス事業は国や県の予算で行われるため、財政的に競合しないことを説明しました。また、議会総務産業常任委員会では道の駅について研究中であり、地域活性化や防災機能の観点から有効性を検討している事が報告されました。

・議会質疑の「検討します」回答に関する意見について

菅沼氏から議会の一般質問での町に回答が「検討します」で終わることが多く、具体的な実施時期が示されないことへの不満が表明されました。議員には「いつまでにやるのか」まで踏み込んだ質疑をしてほしいとの要望がありました。津谷副議長からは、指摘の通りであると認め、議員側も追及質問の重要性を認識していると回答しました。実際に何度も同じ質問を繰り返すことで実現

した事例もあり、議員の「熱量」によって成果が変わることを説明した。また高木議員からは、他の議員の質問も含めて必要な案件は追及していく事の重要性があると回答しました。

・議員選挙の無投票問題と議員定数について

下田氏から議員選挙の無投票問題や議員定数について質問がありました。議長は議員の「なり手不足」に対して、報酬や定数の問題ではなく議員の質を上げることが重要だと説明しました。具体的には町民との対話の機会を増やすためのタウンミーティングや、若者女性との対話の場を設けている事、来年度は4月から「議員の学校」を開講する予定との紹介をしました。また吉澤議員からは、14人の議員がそれぞれの地域や生活背景を持ち活動している、多様な視点から町民の声を聞くことが重要と意見がありました。

・女性参加者からの意見と町長公約への懸念について

上島N氏から女性の会議参加の機会拡大をしてほしいとの意見と、また平日日中の議会傍聴は仕事の関係で難しいため、夕方以降の意見交換会は貴重だとの感想も述べられました。また上島H氏からは国道153号の渋滞と神戸坂の道路脇に雑草が繁茂しており管理についての懸念の意見が出されました。また、町長選挙に公約に掲げたスマートインターチェンジや道の駅構想について「唐突感」があると意見が出され、議員には町長の施策を適切に監視してほしいとの要望がありました。小林議員から国道の道路脇雑草については、担当課に危険性を訴えたが、国道は国、県の管轄で、対応が進んでいないことの説明がされました。また、議長からは国道神戸坂JR側付近で、土手下中井の工事も始まっていて、それに伴う渋滞も不定期に続くことも承知してほしいと説明がされました。

・小学校の統廃合問題について

松田氏からは少子化に伴う小学校の統廃合問題について質問がありました。新町地区の0-6歳児は25人しかおらず、学校運営に懸念が示されました。吉澤議員は町の「小中学校のあり方検討委員会」で将来の学校のあり方が検討されており、統合や小中一貫校の意見が出ていることなどを説明しました。ただし、小規模学校のメリットもありどのような形がこどもたちにとって最適かを慎重に研究している段階であることが報告されました。

・熊対策と松枯れ問題について

下田氏から熊の出没についてと新町の松枯れ問題についての質問がありました。吉澤議員は熊出没の対策として町への提案として補助制度の創設を求めていることを説明しました。特に獣害対策と一体的に進めることの有効性を指摘し、環境省のデータに基づいた対策の必要性を強調しました。松枯れ問題については、新町の西山の状況が深刻であることは認識されている、小林議員から町として松枯れ対策指定市町村の指定を受けるための手続きが進められており、国の補助金を活用した対策が今後展開されることが説明されました。ただ

し、現在の松枯れの広がりを見ていると、全国的に見ても松枯れを完全に阻止することは難しく、地域と相談しながら対策を進めていく方針であることを示しました。

以上